

住民が安心して住み続けられるための地域医療を！

地域医療を守る共同行動 みやぎ連絡会 News

2020.09.11.Fri No.2

発行／地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会事務局
〒983-0047 仙台市宮城野区銀杏町39-18（民医労内）
TEL 022-782-0633／FAX 022-782-0634

地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会

高橋千鶴子代議士（共産）との懇談を行いました！

ベッド削減・医療費抑制施策の大転換を

“ベッド削減にお金を出すのではなく 住民にプラスになることにお金を！”



継続して取り組まれている地元選出国會議員との懇談で、9/9（水）高橋千鶴子代議士（日本共産党）との懇談をもち共同行動みやぎから5団体7名が参加しました。懇談では、国会情勢の報告を受けながら、宮城県内で起きているコロナ禍での病院経営減収問題や不足している医療品問題や住民を取り巻く現状など参加者から発言。県医療計画に基づくベッド削減問題でも、運動の課題についても意見交換が行われました。

（写真：高橋代議士（右から3人目）との懇談）

この間取り組まれた地元選出国會議員等との要請・懇談



◀7/13（月） 土井亨代議士（自民党）

土井亨代議士との懇談には3団体4名が参加。懇談では「今回の地域医療再編には反対」旨とした意見が出され、実態の即した地域医療の在り方を検討しなければならないとの考えが示されました。

7/21（火） 県議会派「県民の声」との懇談 ▶

◀7/27（月） 石垣のりこ参議議員（立憲）

県議会派「みやぎ県民の声」所属議員5名との懇談。地域医療について情報共有。石垣のりこ参議院議員との懇談では、国会の動きなどの話題提供頂きました。



◀8/17（月） 岡本あき子代議士（立憲）

立憲民主党岡本代議士との懇談には4団体4名が参加。地域医療再編とあわせ、県の保健所廃止方針には「初めて聞いたがあり得ない。」と述べ、情報共有を深めました。



次回：地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会事務局会議 10月13日（火）15:00- 医労連会議室

万が一にも統合され、同病院の機能が消滅あるいは縮小されることがあると連鎖的に地域医療（地域の診療所を含めて）は崩壊する。（東北福祉大 佐藤准教授談）

宮城3病院連携・統合 富谷市、誘致に名乗り 移転想定、用地確保へ

河北新報 2020.9.9 (水)

宮城県立がんセンター（名取市）と東北労災病院（仙台市青葉区）、仙台赤十字病院（太白区）の連携、統合に向けた協議で、富谷市の若生裕俊市長が病院の統合移転を想定し、市内への誘致に名乗りを上げたことが9月8日、分かった。

県が8月4日に協議開始を発表して以来、誘致を表明した市町村は初めて。県は①病院の統合②各病院を維持した上での連携の双方を検討している。用地確保の見通しが出てきたことで、統合に向けて協議が進展する可能性がある。

若生市長は9月2日、県保健福祉部を訪れ、誘致の意向を伝えた。協議は事務レベルで始まったが、県は「年内に一定の方向性を出したい」（村井嘉浩知事）との方針を示しており、いち早く市の姿勢を打ち出した。

誘致の理由について、若生市長は取材に、富谷・黒川地域の地理的特性や増大する医療ニーズに言及。「県中央部に位置し県全域からのアクセスが良い上、大規模工業団地を抱えて人口が増え、住民から本格的な総合病院を望む声が高まっている」と説明した。

立地先となる一定規模の土地を確保できる見込みといい、「市として最大限支援したい」と意欲を示した。

3病院の連携、統合は、総合的ながん治療の提供体制を構築するのが目的。県は県立病院機構と労働者健康安全機構、日本赤十字社の各設置者に加え、東北大の助言を得て議論を深める考えだ。

統合する場合の立地場所を巡り、昨年12月に連携方針を提言した県立がんセンターの有識者会議（座長・八重樫伸生東北大医学部長：<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/767412.pdf>）は「アクセスのいい場所」と指摘。村井知事は8月4日の発表会見で「（立地に関する）方針が定まった段階で考えていく」と述べていた。

病床数は、がんセンター383床、労災病院548床、赤十字病院389床。

宮城3病院連携・統合 協議開始を正式発表 知事「年内に一定方向」

https://www.kahoku.co.jp/tohokunews/202008/20200805_11015.html

河北新報 2020.8.5 (水)

宮城県は8月4日、総合的ながん治療の提供体制の構築に向け、県立がんセンター（名取市、383床）と東北労災病院（仙台市青葉区、548床）、仙台赤十字病院（太白区、389床）の連携、統合に向けた協議を始めると正式に発表した。村井嘉浩知事は県庁で臨時記者会見を開き「年内に一定の方向性を出したい」と述べ、速やかに議論する考えを強調した。

県によると、がんセンターの運営方針を話し合う有識者会議（座長・八重樫伸生東北大医学部長）が2019年12月にまとめた提言を踏まえ、検討を開始。東北大の助言を得ながら進める中で、両病院が構想に関心を持ち、3病院の枠組みが固まった。

連携の具体像について、村井知事は「青写真はなし」とした上で（1）病院の統合（2）各病院を維持した上での連携の両方が想定されると説明した。3病院が協力すれば、高度な治療が必要な合併症などへの対応力が上がり「県民に大きな利益がある」と訴えた。

3病院のうち古い病棟は築27～38年が経過している点を踏まえ、村井知事は一体的に整備した場合の費用削減効果も示唆。3者にメリットがあるとの趣旨で「『ウイン・ウイン・ウイン』の関係になるようにしたい」と語った。

統合する場合、医療従事者の雇用を課題に挙げ「経営だけを切り取れない。慎重に進める必要がある」と指摘。有識者会議が「アクセスのいい場所」と求めた立地については「方針が決まれば考えていく」と述べるにとどめた。

県地域医療構想との整合性も重視しつつ、県は担当者会議を月内にも始める。県と県立病院機構、東北労災病院を運営する労働者健康安全機構、日本赤十字社の4者が参加し、東北大が助言役を務める。

宮城3病院連携・統合

富谷市、誘致に名乗り

移転想定、用地確保へ

宮城県立がんセンター（名取市）と東北労災病院（仙台市青葉区）、仙台赤十字病院（太白区）の連携、統合に向けた協議で、富谷市の若生裕俊市長が病院の統合移転を想定し、市内への誘致に名乗りを上げたことが8日、分かった。県が8月4日に協議開始

を発表して以来、誘致を表明した市町村は初めて。県は①病院の統合②各病院を維持した上での連携③の双方を検討している。用地確保の見通しが出てきたことで、統合に向けて協議が進展する可能性がある。若生市長は9月2日、県保健福祉部を訪れ、誘致の

意向を伝えた。協議は事務レベルで始まったが、県は「年内に一定の方向性を出した」（村井嘉浩知事）とのことの方針を示しており、いち早く市の姿勢を打ち出した。誘致の理由について、若生市長は取材に、富谷・黒川地域の地理的特性や増大

する医療ニーズに言及。「県中央部に位置し県全域からのアクセスが良い上、大規模工業団地を抱えて人口が増え、住民から本格的な総合病院を望む声が高まっている」と説明した。立地先となる一定規模の土地を確保できる見込みといい、「市として最大限

支援したい」と意欲を示した。

3病院の連携、統合は、総合的ながん治療の提供体制を構築するのが目的。県は県立病院機構と労働者健康安全機構、日本赤十字社の各設置者に加え、東北大学の助言を得て議論を深める考えだ。

統合する場合の立地場所を巡り、昨年12月に連携方針を提言した県立がんセンターの有識者会議（座長・八重樫伸生東北大学医学部長）は「アクセスのいい場所」と指摘。村井知事は8月4日の発表会見で「（立地に関する）方針が定まった段階で考えていく」と述べていた。

病床数は、がんセンター3803床、労災病院548床、赤十字病院389床。